



～ 日本倶楽部会長再任ご挨拶 ～

去る6月7日に開催された令和3年度会員総会において、会員の皆様のご信任を得て理事に再任され、2期目の会長職に推挙されました。微力ではございますが倶楽部の運営に全力を傾け、引き続き倶楽部の充実、発展のため努力して参りたいと考えております。皆様のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

省みますと、1期目の就任から半年が経過した頃、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延が始まり、未曾有のパンデミックにより、今日現在、わが国では80万人近くの感染者を出し、死者1万4千人を越える大惨禍がもたらされました。度重なる政府の緊急事態宣言発出により我が倶楽部も前代未聞の休館を余儀なくされ、倶楽部活動の自粛、制限の措置を取らざるを得ない状況に追い込まれるなど、1期目は、感染防止の対策が最重点事項となり、倶楽部活動がかなり停滞したことは否定しようもありません。今日に至っても、3度目の緊急事態宣言が発出中であり、変異株の蔓延が懸念される状況ではありますが、ワクチン接種も急速に進みつつあり、行き先に少しの光明がさしつあるようにも思われます。

私の2期目はこのような状況下で再スタートしました。間もなく東京オリンピックが始まり、これが好転の兆しになってコロナ禍が収束に向えばとの淡い期待をもってのスタートであります。まず第一に、引き続きコロナ対策をしっかり行って会員の皆様の健康を守ります。その上で、停滞した倶楽部活動の活性化を図ります。また、急激に減少している会員の増加を図るため新入会員の募集に注力しなければなりません。さらに、総会でご報告しましたように、当倶楽部の所在する国際ビルの建替え問題がここに来て急浮上して参りましたので、歴史と伝統に輝く日本倶楽部の安定的、長期的な運営が維持できることを第一義とし、会員の総意を結集してこの問題に対処して参らなければなりません。そのための組織体制をしっかり構築して、じっくりと丁寧に対応して参ります。

かなり多難な再スタートではありますが、会員の皆様には2期目の新執行部に一層のご理解、ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。



令和3年6月15日
日本倶楽部会長 井嶋 一友

新任ご挨拶

小村 武



この度副会長を仰せつかりました小村です。よろしくお願ひします。

当倶楽部に入会以来、講演会やさまざまな会員間の交流等を通じ、当倶楽部の歴史や伝統の重みを痛感してまいりました。

長い歴史の中にあつて、変えてはならないものは何か、一方、時代の変遷に応じ、変えるべきものは何かを見極める英知が必要です。

今後、高齢化の進展、コロナ禍の影響等で社会も我々の生活様式も大きく変わろうとしています。当倶楽部の伝統を維持しながら新しい時代に相応した魅力ある倶楽部ライフの実現、そのための新しい仲間の確保等課題が山積しています。会員の皆様のご協力をえながら、井嶋会長の下でこれら諸課題の解決のため、微力を尽くしてまいりたいと考えております。

副会長を仰せつかって

伴 襄



会員総会後の理事会で副会長を仰せつかりました。今回の理事交代人事で大幅に若返りが図られた結果、私も会長・小村副会長に次ぐ三番目のシニアということになり、理事としても最古参となった故の副会長ということですが、最後のご奉公のつもりで私なりの微力を尽くしたいと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。

これからの倶楽部の最大の課題は、総会で会長から報告のあった会館建て替え問題です。120年を超える当倶楽部の歴史の中で60年振りの難題です。

現下の倶楽部の脆弱化した財務内容や会員の減少傾向の下では、新しい施設の利用面積はかなり削減せざるを得ないピンチではありますが、一方器が改まるというこの機会は、無駄を排し新たなニーズを取り込んだ利用計画を立てて、倶楽部ライフの新展開を図り、倶楽部経営の持続性を確保できるチャンスでもあります。

この大問題への対処は、会員の皆さん一人一人が、倶楽部の経営・運営・活動に少しでも関心を高めて頂き、まずは財務状況や経営実態を正確に認識して頂いた上で、新たにどういった器造りをして行くのか、ご意見・ご希望・お知恵を出して頂いて、全員参加で方向策を纏め上げて行くことが肝要だと思っています。

皆様のご理解・ご支援・ご協力を切望して止みません。

～ 目次 ～

会長・副会長ご挨拶	1
日本倶楽部会員総会開催される	2
会館問題について・倶楽部の夏季閉館について	2
コロナ感染症問題への対応について	2
講演委員会便り	3

倶楽部活動報告(囲碁会)	11
図書室だより	11
会員の広場	13
定例午餐会(月例会)報告	14
フェローシップ委員会活動状況	16
音楽同好会からのお知らせ・編集後記・他	16